

兵庫県立大学学長の業績評価書

令和4年8月31日
兵庫県立大学学長選考会議

兵庫県立大学学長業績評価規程（以下「規程」という。）第2条第1項第2号に基づき、太田勲学長について、2年任期の最終年度における期末業績評価を行いましたので、その結果を公表します。

1 評価方法

規程第3条に基づき、所信表明書の達成状況及び学長から提出のあった自己評価書における自己評価を業績評価の対象とし、規程第5条に基づき学長に対してヒアリングを行った。

2 評価結果

【総合評価】

コロナ禍の影響により様々な活動が制約を受け、社会、産業、生活等が大きく変化する中で2期目の任期であったが、「学生ファースト」を基軸とした大学運営に取り組みとともに、副理事長としても円滑な法人運営を図り、教育・研究・社会貢献・管理運営の各分野において、全体として順調かつ着実に業務を遂行していると評価できる。

（1）教育

- コロナ禍においても、学長のリーダーシップのもと、原則対面での授業実施方針を堅持するとともに、社会や学内の感染状況に応じて、授業や実習、フィールドワーク、課外活動等の実施形態を機動的かつ細やかに見直し、現在まで大きな混乱なく適切に対応できていることは大いに評価できる。
- 教養教育における課題や今後のあり方など、教養教育改編委員会での検討結果を踏まえ、教養・共通科目の再構築、教育プログラム体系に応じた実施体制等について、全学的・組織的な検討を進めていることは評価できる。
- 国際交流について、コロナ禍により、多くの海外研修が中止となったが、オンラインの活用や国内フィールドでの工夫等により教育の質の確保に努めた。さらに、フランスの国営研究機関 CETIM からの講義配信や海外大学とのオンラインによる教育・交流プログラムの充実・強化を図ったことは評価できる。
- 平成31年度開設の国際商経及び社会情報科学部、令和3年度開設の社会科学、情報科学、理学の3研究科では、コロナ禍やDXの進展など時代の変化に的確に対応しながら先進的な教育研究を展開するとともに、情報科学研究科では令和5年度入学生から定員を20名増加するなど、さらなる充実に向け取り組んでいることは評価できる。

(2) 研究

- 多様な学術分野と医療の融合により先進的な技術開発等に取り組むため、医産学連携の拠点として、先端医療工学研究所を開設するとともに、研究所を核として複数の大学院研究科で構成するオープン大学院を設置したことは大いに評価できる。
- 学長の特徴・個性化経費を活用し、本学の先進的で特色ある重点研究プロジェクト等に支援を行い学内の研究活動の活性化を図ることにより、外部資金獲得額や査読付き論文数の増加、研究支援を受けた教員の著名な賞の受賞など、研究支援の効果が現れてきていることは評価できる。
- GX（グリーントランスフォーメーション）に向けたグリーンエネルギー開発技術に関して、政策科学研究所と水素エネルギー共同研究センターが連携して研究プロジェクトを立ち上げるなど、全学的に異分野融合・部局横断研究に取り組んでいることは評価できる。

(3) 社会貢献

- 人工知能研究教育センター（AIセンター）では、地元企業からの要望に応じたDX支援活動を強化するなど、産学連携・研究推進機構を中心に、地元産業界を対象としたマッチング事業やセミナー、共同研究などに取り組んでいることは評価できる。
- 先端医療工学研究所の開設に合わせて、はりま姫路総合医療センターと包括連携協定を締結し、医産学の連携体制を強化するとともに、新しい医療健康技術の開発につなげるため、臨床現場での医産学の人的交流と情報交換を行うイノベーションサロンの開設に取り組んでいることは評価できる。

(4) 管理運営

- コロナ禍で中止していた学長によるキャンパス訪問を再開し、学部改編など今後の大学運営や将来構想に活かすため、現場の多くの教員と意見交換を行い、キャンパスとの間で課題や方向性の共有を行っていることは評価できる。
- 各部局の教員選考委員会構成員を全学的に統一するとともに、採用・昇任人事については部局長から説明を求める制度を設けるなど、大学の将来構想に沿った優秀な人材の登用を図るため、人事委員会の改革を行ったことは評価できる。一方、専門的な知識が必要とされる大学職員のプロパー採用は、実施に向けた検討を進めているところである。
- 入学試験について、一般選抜に加え学校推薦型選抜にもWEB出願の導入を決定し、また、大学入学者選抜業務手当を制度化するなど、一定の改革を進めていることは評価できる。一方、入試問題の内容や作成体制等の見直しは、さらなる改善に向けた検討を進めているところである。